

令和7年度 病虫害防除技術情報 第4号

令和7年7月1日

大分県農林水産研究指導センター

農業研究部

白ネギにおけるネギアザミウマの防除について

令和7年6月中旬に実施した巡回調査では、白ネギにおいてネギアザミウマの発生が確認されています（図1）。本虫は高温乾燥条件を好み、1か月予報（6月26日・福岡管区气象台発表）によると、気温は平年並10%、高い確率80%、降水量は少ない確率50%、平年並30%と、好適条件で推移することが予想されており、今後のネギアザミウマの発生増加が懸念されます。また、ピーマンにおいてアザミウマ類の注意報が発表され、他品目でもアザミウマ類の発生が多い傾向となっています。圃場での本虫の発生状況に注意し、速やかな防除に努めましょう。

1. 発生の状況

6月中旬に実施した巡回調査結果

【平坦地】

発生圃場率：100%（前年：100%、平年：91.3%）

平均被害度：16.6（前年：30.0、平年：20.9）

【中山間地】

発生圃場率：62.5%（前年：100%、平年：82.3%）

平均被害度：2.2（前年：17.3、平年：10.9）

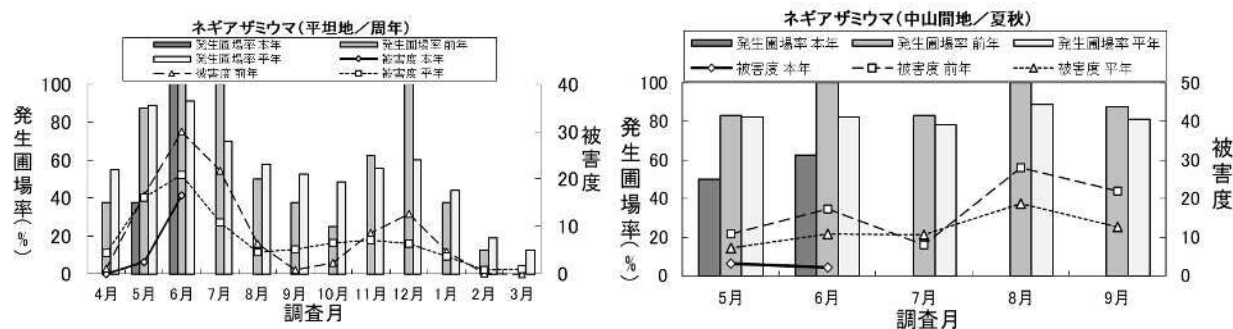


図1 白ネギ発生予察巡回調査におけるネギアザミウマの発生状況

2. 防除上の注意事項

- (1) ネギアザミウマの薬剤抵抗性発達を防ぐため、同一系統薬剤の連続使用は避け、ローテーション防除を心掛ける。防除に使用する薬剤は、大分県農林水産研究指導センター病害虫対策チームホームページ内にある「大分県主要農作物病害虫及び雑草防除指導指針」

(<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujosho/boujoshishin.html>)の「ねぎ」の項を参照する。なお、薬剤によっては指針の更新日以降に登録内容が変更されている場合があるため、容器のラベルに記載されている使用時期、使用回数等を遵守し使用する。

病害虫対策チームホームページ

<https://www.pref.oita.jp/site/oita-boujosho/>



- (2) 圃場内および周辺の雑草はネギアザミウマの増殖源となるため、除草を徹底する。ただし、防除前に除草を行うと、圃場外からの飛び込みにより被害が拡大する恐れがあるため、圃場内の白ネギに対して防除を実施した後、薬剤の効果が残っている内に速やかに除草を行うよう留意する。また、アザミウマ類は風で移動するため、特に圃場の風上側の除草を心がける。
- (3) 次作以降のネギアザミウマや本虫が媒介するえそ条斑病（IYSV）の蔓延を防ぐため、残渣の処分や圃場周辺の除草を徹底する。
- (4) ネギアザミウマは、白ネギ以外にもユリ科、アブラナ科、ウリ科、ナス科、キク科及びバラ科など多くの園芸作物に被害を及ぼす害虫であることから、作物体を注意深く観察し早期発見・早期防除を心掛ける。